校長室だより
NO.　３３
令和元年11月５日

すべては光る

梅園小学校長
たか　す　りょうへい
高　須　亮　平

子ども一人一人の成長が見られた学芸会

１０月２６日（土）の学芸会には多くの保護者の皆様、学区の皆様にご来校いただきました。本当にありがとうございました。子どもたちは、９月半ばより徐々に練習に取り組んできました。その過程では、学級・学年でいろいろな困難がありしましたが、自分たちの演技・演奏をよりよくしていこうと、力を合わせる姿が見られたことは、学校としても大きな収穫であり成果と考えています。それは、本番での子どもたちの演技・演奏を見ていただいた保護者の皆様であれば感じていただけたと思います。ただ、そのことができたのは、学校の力だけではなく、家庭の支援もあってのことと思います。子どもたちの衣装から、中には演技・演奏指導にまで支えていただいたことを聞いています。また、当日の来場者数の多さを見ても分かります。これまでで最高であったように思われますし、それだけ皆様の関心の高さを感じています。

１０月２１日（月）の校長室だよりに教師の学芸会への思いを載せました。今回は、多くの教師の指導記録から学芸会を指導した成果があげられましたので紹介します。教師がどんなことを考えて指導に当たってきたかを理解していただければ幸いです。

○　１年の学級担任の学習記録

学芸会は、運動会のように「前の人について行けば、とりあえずできる」というものではなく、自分の役に合わせて必要に応じて動くことが求められます。最初は、全く自分事ではなかった１年生が自分の役に合わせて動き演じることができるようになってきました。移動のために全体が並ぶこともずっと早くなりました。この学芸会の練習・本番を通して、「自分のことを自分で考えて行動する」ことができるようになってきたと思います。

1年「おしゃべりなたまごやき」

○　２年の学級担任の指導記録

学芸会を通して、子どもたちの成長は３つあげられます。まず、他の子に頼らず、自分の役を学級の一員としてしっかり行えました。大勢の前で自己表現することが苦手な子も、学級の大事な一人として取り組むことができました。次に、簡単に満足することなく、工夫ができました。役になり切り、観客に伝わる演技をどうしたらよいかを考えて練習ができました。３つ目は、友達、学級みんなを大切にすることができました。友達のアドバイスから教えてもらったり、自分がアイデアを出したりして助け合うことができました。友達の気持ちや学級全体の動きを考えながら演技することができるようになりました。たくまし

2年4組「おばけじぞう」

さ、思いやり、助け合う心が育ち、絆を強めるための機会となり、うれしく思います。次への活動・学びへと生かせるようにしていきたいと思います。

3年「ぼくらの転校生、ロボくん」

○　４年の学級担任の指導記録

子どもたちは、この学芸会で大きな成長をすることができました。まず、控えめだった子たちが生き生きと演技できたことが大きなことでした。授業中、手を挙げることを苦手としていた子が、学芸会の練習で全員の前に立ち、大きな声でせりふを言うことができるようになりました。そのことで、自分はできるという自信がつき、うまくなりました。さらに、普段の生活でも今までより友達の輪を広げ、多くの子と一緒に遊べるようになりました。学級全体としてもみんなでがんばるという意識が初めて芽生えてきました。せりふをうまく言えなかった子がいると、気持ちを込めたせりふの言い方を教え合う子どもの姿に感心しました。自分だけではなく友達を思いやる心を育むことができました。学芸会を通して「信じよう　わたしのやればできるカ」のように自分の力に自信をつけられた学芸会でした。

4年3組「ものぐさ太郎」

5年「ライオンキング」

○　５年の学級担任の指導記録より

学芸会が終わりました。ここまで、子どもたちは本当によくがんばってくれました。子どもたちのピークを本番に持っていけるか、それをずっと考えてきました。子どもたちの気持ちがどんどん高まっていくような指導をしてきました。本番、子どもたちの真剣な目を見たとき、改めてよくがんばってくれたと思いました。この学芸会を通して、少しずつですが、自分のことに責任を持って行動する姿が見られるようになってきたのではないかと思います。自分の出番で、自分の役割を果たす意味が少しずつ分かってきたように感じています。だから、出番になると、忘れずに、むしろ少し早いタイミングで行動する姿がありました。しかし、まだまだ「自分で考えて」ということは弱いような気がしています。この次の山の学習に、学年としていい雰囲気を持ち込んで、「自分で考えて」動くことができるように支援していきたいと思います。

6年4組「うしろの正面だあれ」

どの指導記録からも、子どもの成長を願う教師の思いを感じます。だから、子どもの普段からの姿を的確に捉え、どのようになってきているかを把握できています。逆に、足りなさを感じているのであれば、それが次への目標となり、どのような手立てを講じていこうかを考えています。学芸会での感動は、きっと次へとつながり、次の感動となり、そのような感動の連続が、子どもを確かに成長させていくと思います。